

# ソーラーシェアリングで 地域と農業を再生しよう

千葉県 市市民エネルギーちばと農業生産法人 Three・Little・Birds

「一人ひとりの小さな力をつなぎ合わせ、自然エネルギーの活用で地球

温暖化を防ぎ、脱原発社会をつくりたい。そして農業を再生して地域社会



市民エネルギーちばのみなさん。パネルの増設  
工事中の若いスタッフと一緒に

「一人ひとりの小さな力をつなぎ合わせ、自然エネルギーの活用で地球温暖化を防ぎ、脱原発社会をつくりたい。そして農業を再生して地域社会

## 売電収入で若い農家育て 耕作放棄地の生産を維持

エネルギーちばとソーラーパネルの下の農地の耕作を請け負う農業生産法人「Three・Little・Birds」(スリー・リトル・バード)の皆さんです。収益を地域還元することが大切

「市民エネルギーちば」の代表社員、東(ひがし)光弘さんです。「市民エネルギーちば」は、地権者である農家から農地を賃借して、農地の上に太陽光発電を設置・施工・維持管理し、下の農地の耕作は、昨年2月に発足した農業生産法人「Three・Little・Birds」に依頼。設置費用は、「市民エネルギーちば」が市民出資を募ったり、自然エネルギー



畑を耕作する橋さん(中央)と寺本さん(左)。寺本さんは農民連会員  
パネルを設置した畑で説明する東光弘さん。畑は小麦



の人が金もうけするんじゃないかって、地域の若い農家を応援したり、地球環境や地域環境の保全に役立ちたい、そういう社会全体のためになることが大切だと思ふんです。事業に取り組み市民が興味した企業が事業主になって出資したりして、売電収入は、出資金の返済・還元ほかに、地権者への賃借料と、農地の耕作委託料となつて、地域に還元される仕組みになっています。「自然エネルギー事業で重要なのは、利益が地域に循環すること。自然エネルギーはインフラ事業。インフラ事業は一部力しています。東さんは言います。耕作受託料が若い農家の収入に

「Three・Little・Birds」には新規就農者や有機農業に取り組み農業後継者など30代の青年農家3人のほか、地域のベテラン米農家の橋茂雄さん、寺本幸一さんが参加し、機械を貸したり、農作業を教えたりして協力しています。寺本さんは千葉県農民連会員で、20年にわたる大豆畑トラストの大豆生産者でもあり、開畑の農地を守るべく、この地で大豆、小麦、大麦などを30年近く作り続けてきました。「高齢でもう作れないという農家は多いけど、返済に長期間かかる多額の借金をしてソーラーシェアリングを自分でするのも難しい。このソーラーシェアリングの仕事で農地を荒らさずにすむのは、本当に助かります。ぜひ若い人を応援していきたい」と寺本さん。

「Three・Little・Birds」には新規就農者や有機農業に取り組み農業後継者など30代の青年農家3人のほか、地域のベテラン米農家の橋茂雄さん、寺本幸一さんが参加し、機械を貸したり、農作業を教えたりして協力しています。寺本さんは千葉県農民連会員で、20年にわたる大豆畑トラストの大豆生産者でもあり、開畑の農地を守るべく、この地で大豆、小麦、大麦などを30年近く作り続けてきました。「高齢でもう作れないという農家は多いけど、返済に長期間かかる多額の借金をしてソーラーシェアリングを自分でするのも難しい。このソーラーシェアリングの仕事で農地を荒らさずにすむのは、本当に助かります。ぜひ若い人を応援していきたい」と寺本さん。